

人として

こころ豊かな人権文化に満ちた社会をつくりましょう

なによりも重なる人権





だれもが人として幸せになるためには

みなさん、もう一度一緒に同和問題について考えてみませんか。

同じ日本に住みながら一部の人々は生まれた場所が違うだけで、偏見や差別により長い間苦しい生活を強いられてきました。そして「全ての人は平等」という考えが常識となっているこの社会の中で、今なお、差別が残っています。

このことは、だれもがもっている「幸せに生きる」権利が侵されていることであり、許されることではありません。

同和問題を、私たち一人ひとりが他人事と思わず、自分の問題として解決していただきたいと思います。

また、日常生活を「人権」の視点から見つめ直すことによって、こころ豊かな人権文化に満ちた差別のない社会が実現する第一歩になるのではないのでしょうか。

平成19年3月

兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会



目次

人権の扉を開きましょう	2
同和問題は今でもあるのですか	4
差別が残っているのはなぜですか	6
“葛藤 ^{かつとう} する”若者たち	8
差別意識はどうすればなくなりますか	10
ものの見方や考え方を確かめましょう	12
会話の重要性を考えてみましょう	14
前向きな気持ちの大切さに気づきましょう	15
社会を外から見てみましょう	16
こころ豊かな人権文化に満ちた社会をつくりましょう	18
人権意識・人権感覚を高めましょう	20
資料編	22
兵庫県下の人権相談等の窓口	28

人権の

扉を開きましょー

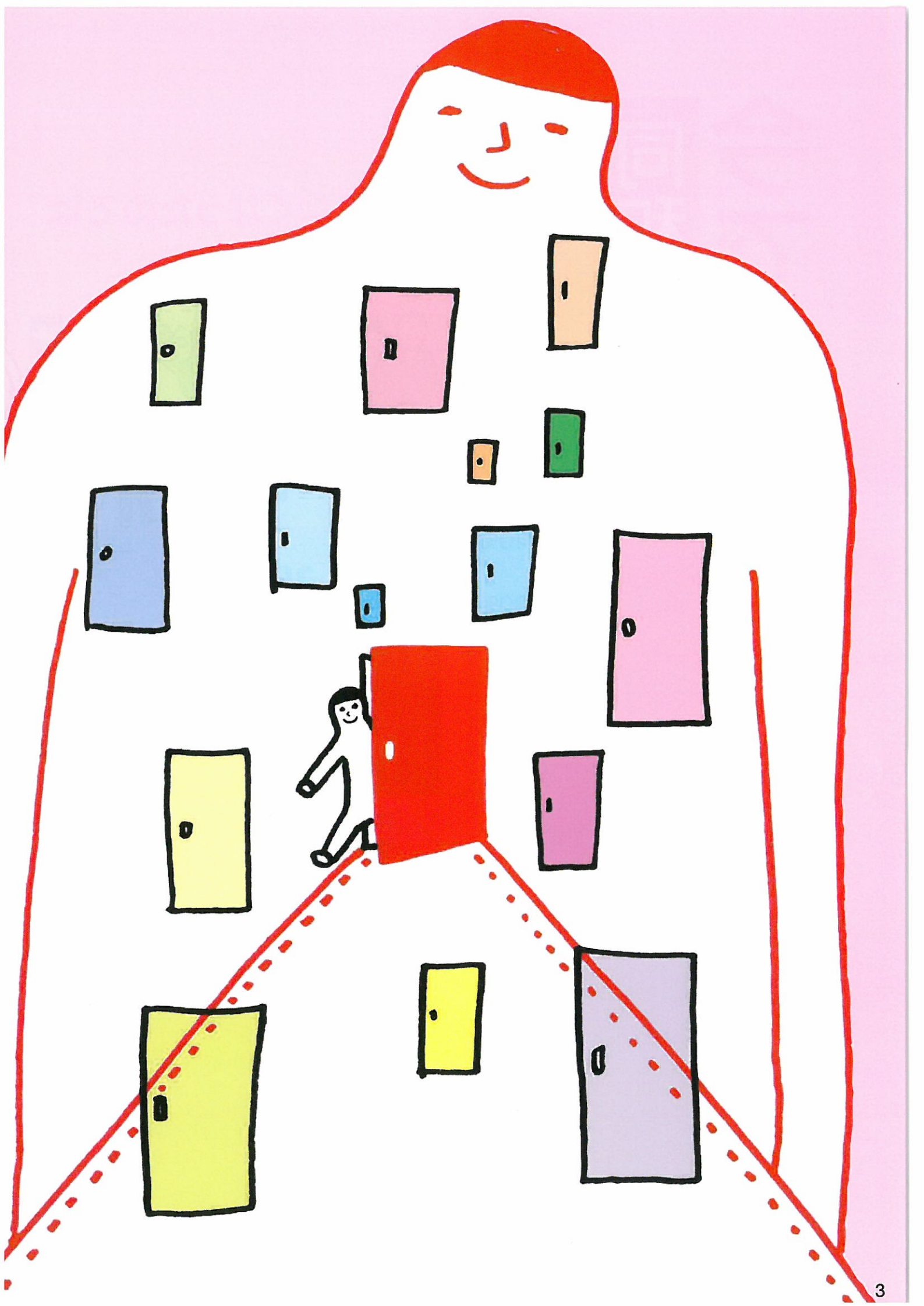
人権とは「幸せに生きる」権利です

人権とは、だれもが生まれながらにもっている「幸せに生きる」権利です。人が人として幸せに生きていくために必要な、だれからも侵されることのない大切な権利です。しかし、私たちの身のまわりには、だれもがもっている「幸せに生きたい」という願いを踏みにじるさまざまな人権問題があります。同和問題もその中の一つであり、基本的人権にかかわる重要な問題です。

同和問題は自分自身の問題です

同和問題とは、日本の歴史の中でつくられた身分制度によって、一部の人々が生活する上で厳しい差別を強いられてきた、わが国固有の人権問題です。

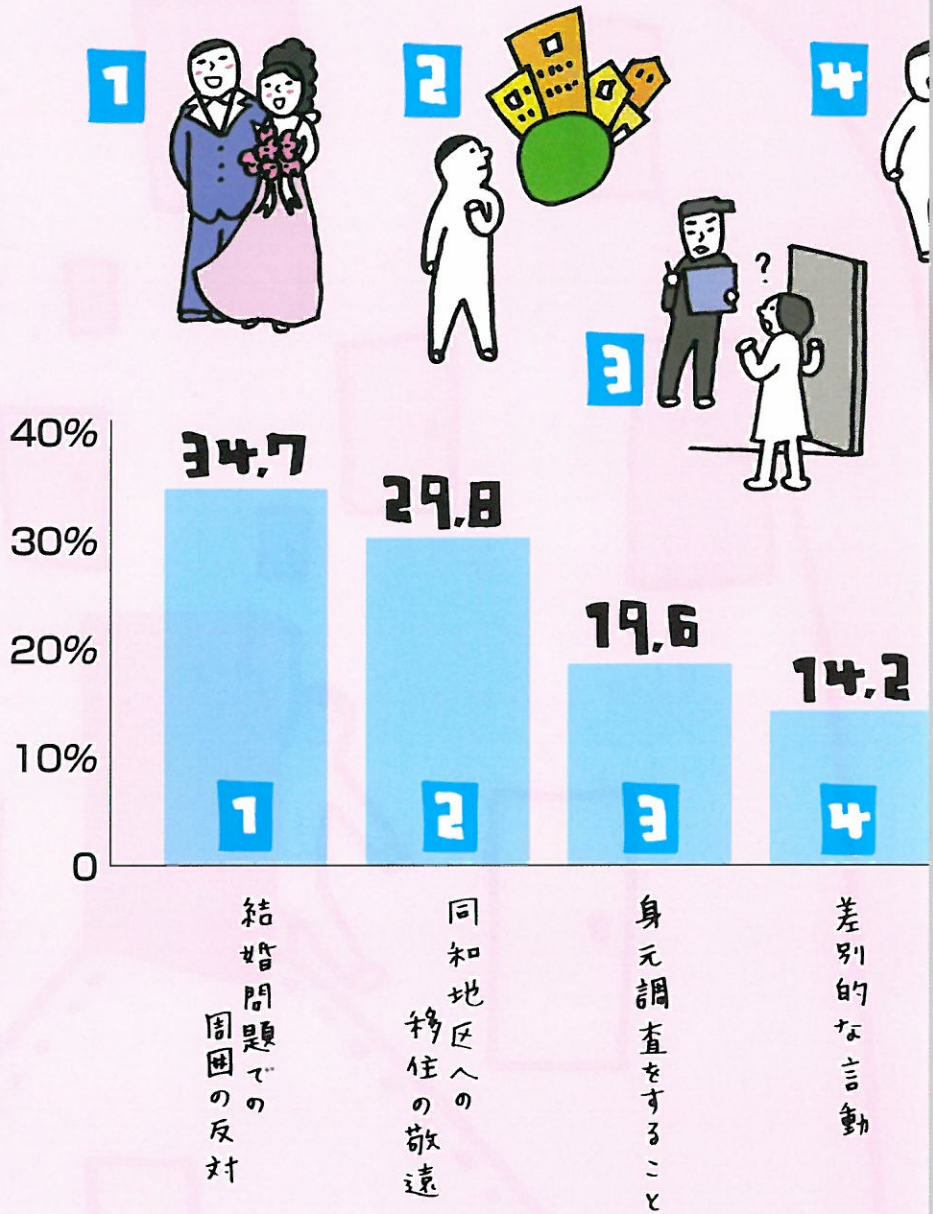
この問題の解決は、私たち一人ひとりの課題であり、自分自身の問題として考えることが大切です。

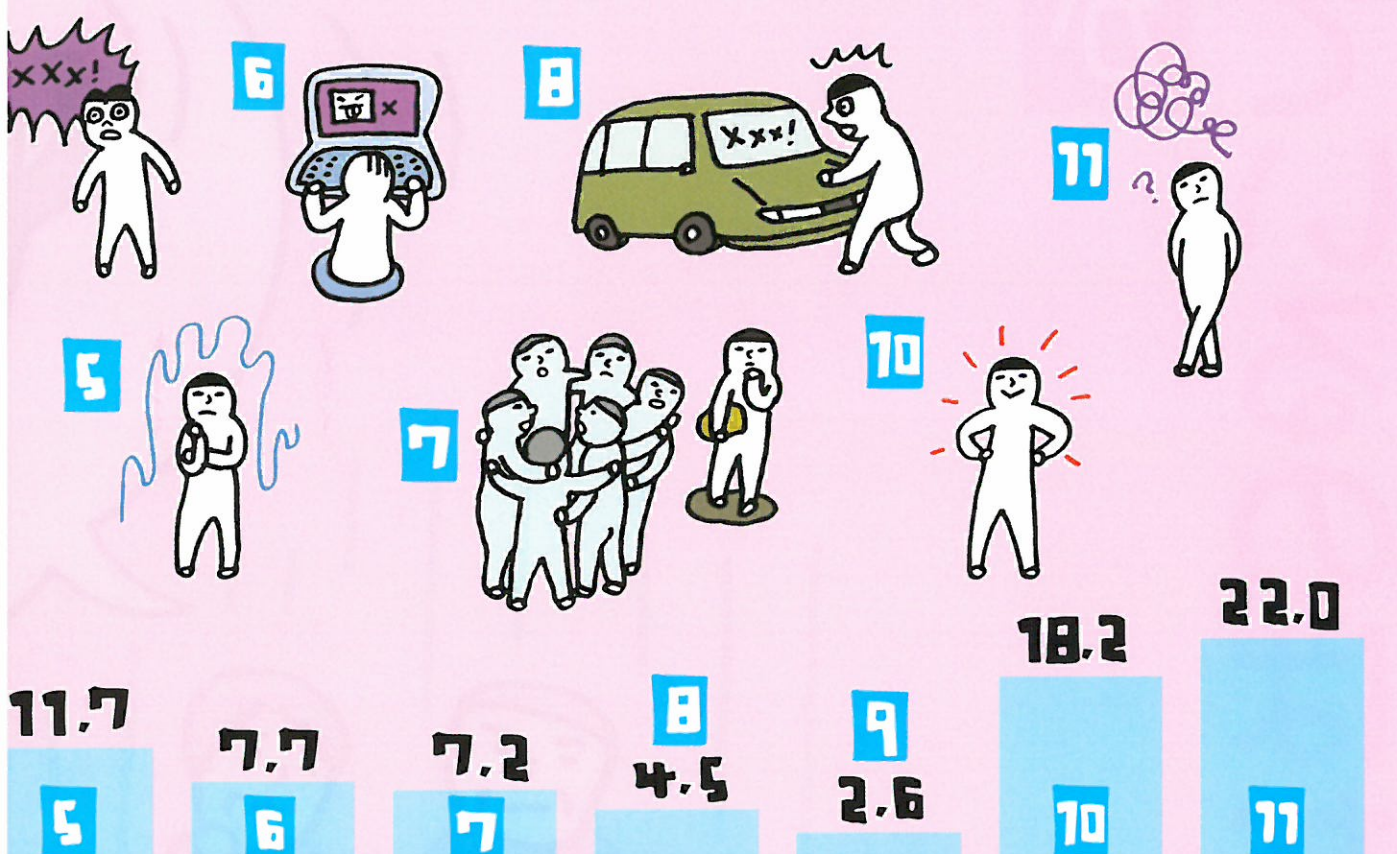


今でももあるのですか

同和問題は

差別はもうなくなったのではありませんか？





就職・職場での差別・不利な扱い

インターネットを悪用した差別的な情報

地域の活動や付き合いでの差別

差別的な落書き

その他

特に差別なんかはない

わからない

今なお、いろいろな差別が残っています

国や地方公共団体などによる地域改善対策(同和対策)の結果、生活環境などの格差は大きく改善されましたが、**今なお、結婚・就職・居住などにかかわる問題が残っています。**

最近では、インターネット上に同和問題に関連した個人を誹謗・中傷する書き込みが掲示される事件もおきています。

兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会
『平成15年度人権に関する県民意識調査』(回答は3つまで)より

残っているのはなぜですか

差別が



Q 「既婚の方に」たとえば、あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。

- | | | | |
|---------------------------|-------|-------------------------|-------|
| (1) 子供の意思を尊重する | 45.6% | (4) 家族や親戚の反対があれば結婚を認めない | 2.1% |
| (2) ためらったら勇気づける | 0.8% | (5) 絶対に結婚を認めない | 4.1% |
| (3) 親として反対、子供の意思が強ければ仕方ない | 27.3% | (6) その他 | 2.3% |
| | | (7) わからない | 17.8% |



差別意識がなくなっていないからです

日ごろは「差別は絶対にしない」と思っている人でも、自分や親しい人の結婚や居住地を選ぶ時になると、差別意識が表れることがあります。

それは、私たちの心の中に、同和問題に対する無理解やマイナスイメージが残っているからです。

同和問題に対する無関心

今日では環境改善も進み、外見上問題は見えにくくなっていますが、まだ差別に苦しむ多くの人があります。

同和問題を他人事と考え、無関心な人や見て見ぬふりをする人がいますが、自分がその人の身になって考えれば、大きな人権問題だと気づくはずです。



Q 「未婚の方に」たとえば、あなたが結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。

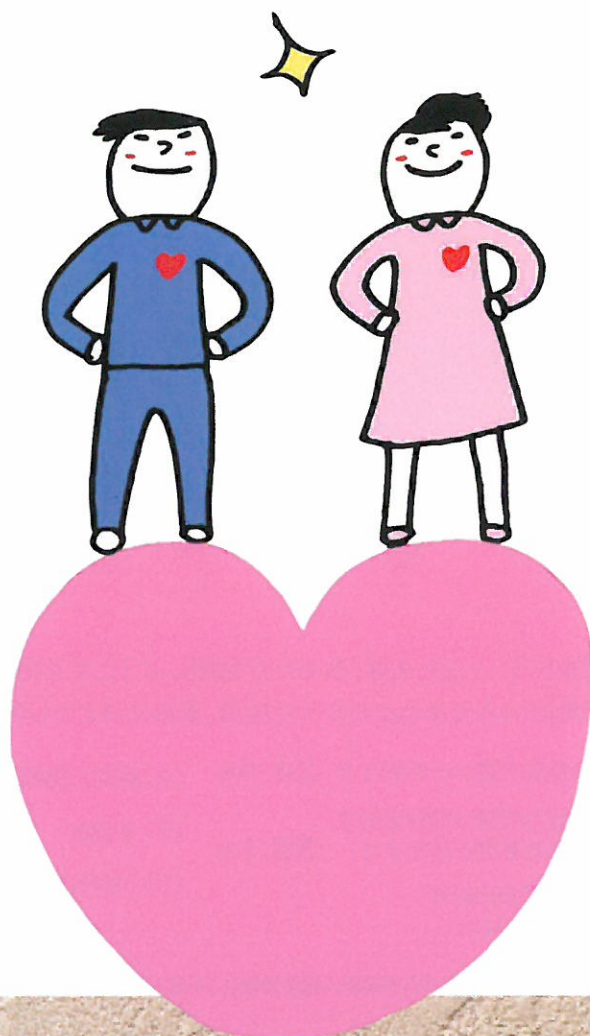
- | | | | |
|-------------------------------|-------|--------------|-------|
| (1) 自分の意思を貫いて結婚する | 24.4% | (4) 絶対に結婚しない | 5.0% |
| (2) 説得に全力を傾け理解を得て自分の意思を貫き結婚する | 36.1% | (5) その他 | 1.7% |
| (3) 家族や親戚の反対があれば結婚しない | 4.4% | (6) わからない | 28.3% |

兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会「平成15年度人権に関する県民意識調査」より

かつ とう “葛藤する” 若者たち

“若い人たちは部落差別なんか気にしていないだろう”
と思う人は多いのではないのでしょうか。

しかし、友人や恋人に自分の住所や出身地をなかなか言えない、
そこが被差別部落であることをどう伝えればいいのかと
葛藤する若者たちがいます。



被差別部落の若者のひとり

20歳のマナ(仮名)は、こう語ります。

友達の何人かには(部落のことを)言うてる。
「そんなん、一緒の人間やん。変わらんやん。関係ないやん」
って言う子もおるし、軽いなあって思うけど。
でも、そんな(差別に反対する)教育受けてないねんから、
そういう言葉しか出えへんねんなっていうのあるし。
高校とかは彼氏とかできるやん。
だから(同じ出身地の友達とは)彼氏の話でいっぱい。
その中で真剣なトークもする。
「部落って言っといたほうがいいんかな」とか。
どう言えばわかってくれるのか、
果たして相手がきちんと受け止めてくれるのかどうか…。

**そんな葛藤を経て、マナは意を決して、打ち明けます。
そして、自分と相手との関係性を確かめ、深めていきます。**

恋愛相手からの差別を経験したのは、25歳のハヤト(仮名)です。

一時は大変ショックを受けたそうですが、
家族や仲間の励ましの中で立ち直ります。
彼は、当時を振り返ってこのように語ります。

人を見下すような人にろくな人はいない。
どんな理由にしても。
自分自身が思われるのはどないも思わへんけど、
自分の親の仕事がどうのこうのということは、
自分の親がばかにされてるみたいな感じで、
だから、もうめっちゃめっちゃむかついたけど。
やっぱり自分は、
別に間違った生き方もしてないし、みたいな。

**ハヤトは、自分の出身地を誇りにし、
親が苦勞して生きてきた姿を誇りに思っています。**

差別意識は

どうすれば
なくなりますか



まず、正しく知りましょう

「そっとしておけば、差別は自然になくなるのではないか」「知らせるから、意識するのではないか」という意見が聞かれますが、本当にそうでしょうか。

この問題をなくすためには、私たち一人ひとりが、この問題の不合理さを理解することから始まります。

私たち一人ひとりが、**同和問題を避けて通るのではなく、家庭、学校、職場などの場で、学びあい、正しく理解し、偏見をなくすことが大切です。**

内閣府が平成15(2003)年に行った「人権擁護に関する世論調査」によると、75%の人が同和問題を知っていると答えています。そのうちの28%の人が家族や近所・職場の人や学校の友だちを通じて、13%の人がテレビ・ラジオ・新聞・本などを通じて知ったと答えています。その最初の段階で誤った知識を身につけてしまうことがあります。しかし、正しい知識を身につけていれば、一部の情報に惑わされることはありません。

Q 同和問題を知ったきっかけ。

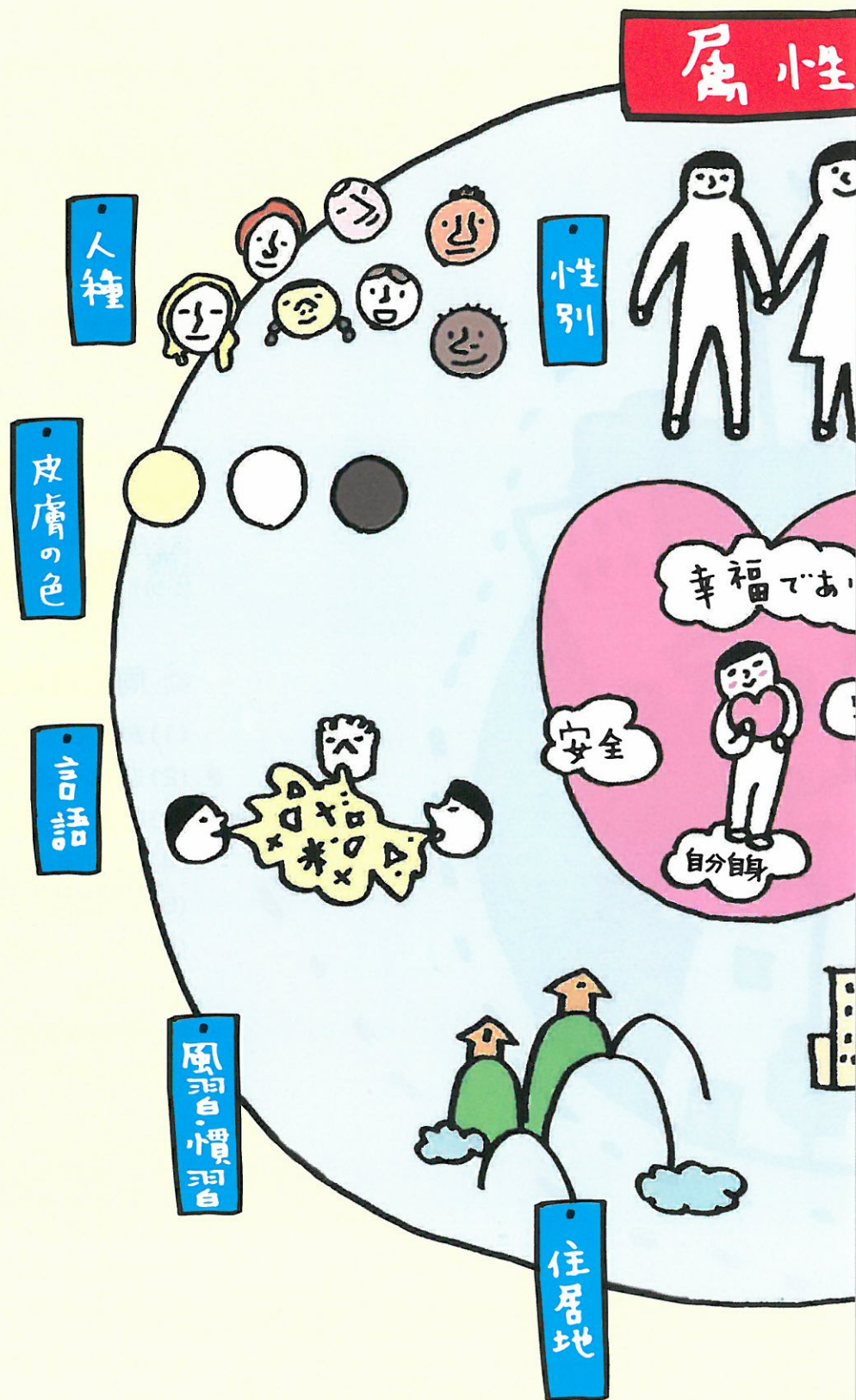
- (1) 家族(祖父母・父母・兄弟等)から聞いた …… **17.5%**
- (2) 近所から聞いた …… **3.7%**
- (3) 職場の人から聞いた …… **3.6%**
- (4) 学校の友だちから聞いた …… **3.4%**
- (5) 学校の授業でおそわった …… **16.8%**
- (6) テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った …… **13.5%**
- (7) その他 …… **16.5%**
- (8) 同和問題を知らない …… **25.0%**

内閣府「人権擁護に関する世論調査」(平成15(2003)年2月調査)より

「同和地区だけが良くなった」という見方

同和問題を解決するための特別対策の結果、同和地区の生活環境は大きく改善されました。しかし、一方では、こうした状況だけをとりえて「同和地区だけが良くなり、逆差別ではないか」という意見を聞くことがあります。これは、過去に施策が十分なされないまま長い間、苦しい生活を強いられてきた同和地区に対する思いが至らない人の考えです。

もの見方や考え方を 確かめまじょう





属性

人はそれぞれに、出身地や肩書き・学歴など異なる属性をもっています。この属性だけで人を判断していませんか。人の属性の違いを違いとして認めあい、尊重しあうことが大切です。

その上で、「幸福でありたい」「安全・安心に生きたい」などの人間としての本質的な願いを大切にすることです。

予断と偏見

予断とは、真実を知る前に「悪い」とか、「こわい」というように、自分で勝手に決めつけてしまうことです。

偏見とは、十分な証拠も理由もないのに、一方的に偏った見方をしてしまうことです。

同和問題を正しく知らないで、予断や偏見により、マイナスイメージをもってしまういませんか。

一部で全体を判断する

私たちは、一部を見て全体を判断してしまうことがあります。

例えば、一度の、あるいは一部の人のしたことで、その人や集団の全てが善いとか悪いとか決めつけたとしたら、それは真実を見誤ることになります。